

氏 名	益 岡 了
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 乙 第 57 号
学位授与の日付	平成 9 年 11 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	都市的空間様相の動的認識から見た景観シーケンスに関する研究
審 査 委 員	(主査) 教 授 材 野 博 司 教 授 西 村 征 一 郎 教 授 古 山 正 雄

論 文 内 容 の 要 旨

シーケンス空間の表記方法研究と対をなす認識方法の研究の流れの中で、本研究はシーケンス景観と視覚的行動との対応関係から、空間の継起性を探ろうとするものであるが、特に研究室における課題としての瞬時的行動変化の連続空間反応に主眼を置いて研究したものであり、論文は 8 章よりなる。

「第一章 研究の目的と構成」では、都市的空間様相の一側面である都市景観様相の継起的認識について序論的に述べた後に、本研究の目的・方法・構成について記し、本研究と関連のある既往の研究を踏まえ、本研究の位置づけを行った。「第二章 景観の構成要因と歩行行動・反応」では、本研究で取り上げる都市的空間様相に即応的に対峙する視覚行動様態を明らかにするとともに、景観様相の投影主舞台である歩行空間の都市的空間様相への寄与性について論じている。「第三章 景観シーケンスと歩行行動・反応」「第四章 景観シーケンスと景観構成および歩行者の行動・反応」では、本研究室が従来、主に対象としてきた歴史的空間から現代都市空間への斜象のための結節空間としての対象空間の抽出・検討により、継起的空間性の存在を通しての両空間（歴史的空間と今回の対象空間）相互の共時性・類型性を見出すとともに、自然態景観行動対応と装置介在対応の類似性を確認している。「第五章 景観シーケンスと明暗情報および輪郭情報」では、景観様相を形成する空間の架構的伸展性の大小により、視覚的行動と他の空間対応行動の関与の様態に、顕著な差異が認められることを先ず明らかにし、次に景観様相の形象詳細が架構的伸展性での説明付加要因を相補する局面を確認している。「第六章 視野映像と歩行者の行動・反応」「第七章 歩行者の行動・反応・空間情報から見た景観シーケンス」では「第三章～第五章」の特性を顕著に持つ空間を主対象に検討を行うとともに、諸結果の再比較を行い、瞬時的行動の継起的連続としての側面から見たシーケンスの手がかりを上記までの検討を踏まえて考察し、シーケンス空間形成のための媒介的知見を得ている。「第八章 結論」では、本研究の総括的なまとめを行うとともに本研究成果を快適な都市的空間様相へと投影するための幾つかの提案を行っている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、都市環境空間デザインにおける、継起的空間認識と空間デザイン手法推究のための基礎研究である。都市空間での移動に伴う景観体験の多様化と動的象表現の日常化が進行する中で、都市の空間デザイン表象過程の静止座残滓性が目立ちつつあり又、日常環境空間での動的象表現の持つ空間的意味性への模索、および人間尺度視座への配慮の両面の欠如が見られ勝ちな状況の中で、本研究は動的瞬時認識という、ややもするとデジタル志向のみに傾斜し勝ちのテーマ性の中に、景観行動での尺度性を織り込みつつデジタル対応するアナログ的な連続変化の展開を可能とする手がかりを得ている。又静視点の順次集合では、認識困難であった空間事象の継起性を動視点の継起的連鎖という視点から抽出しており、都市

的様相の動的認識と継起的空間創造への新たな寄与性が大であると認められる。本論文はレフェリーの
ある下記学会誌3編（共に、申請者が筆頭著者）、参考論文6編（1編を除き申請者が筆頭）をベースに
している。

「シーケンス景観における歩行者の行動と反応」

日本デザイン学会、デザイン学研究、第44巻4号、通巻124号、pp.1-10

「シーケンス景観における歩行者の行動と反応の研究」

日本建築学会計画系論文集、No.502、pp.163-170

「シーケンス景観における視覚情報が歩行者の反応に及ぼす影響」

日本デザイン学会、デザイン学研究、第44巻3号、通巻123号

以上の結果により本論文の内容には、十分な独創性と新規性があるとともに高い学術的な価値があると全
審査員が認めた。